



記入日	西暦 2021 年 1 月 4 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	3
タイトル	生活単元学習 「まちたんけん」
実践担当者のお名前	山本隆史

実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 11 月 16 日～西暦 2020 年 12 月 3 日
実践の所要時間	70 分×13 日 = 15 時間 10 分
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童 (小学部)
防災教育の対象者の人数	11 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	学校周辺の公園や駅等
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・学校周辺の危険箇所 (ブロック塀・堤防・交差点・踏切等)

達成目標	・自分たちが生活する学校周辺の探検を通して、学校周辺の自然の特徴や危険な場所を知る。 ・危険な場所での注意点や自らの身を守る方法を知る。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	1. 単元計画 ○日程 ・生活単元学習の時間 (毎日 10 : 35 ~ 11 : 45) ・児童の歩く力などの実態を考慮し、学校から 2 km 以内の公園や駅等を目的地とした。 ・初めは行き慣れた公園を目的地にし、徐々に難易度を高めた。	



○活動内容

- ・手持ち用と掲示用の地図を準備し、行った場所の写真を貼り、地図を作成する。
- ・危険な場所や注意点を確認する。
- ・掲示用の地図ですごろくを行い、遊びの中で学習内容の定着を図る。
- ・掲示用の地図（すごろく）を交流校との間接交流に使用し、防災学習の内容を知ってもらう。



2. 実践内容

○まちたんけん

- ・目的地を確認し、道路を安全に歩いた。
- ・堤防は雨の日は近づかないこと、ブロック塀は地震で倒れてくることがあるので近くを歩かないことなど、危険な場所を見つけたら注意点を確認した。



○すごろく大会をしよう

- ・作成した地図を使ってすごろく大会を3回行った。
- ・楽しくすごろくに組みながら、危険な場所での注意点や対応方法を繰り返し確認した。



○交流校との間接交流

- ・作成した地図を交流校に渡し、すごろくに組みんでもらう。
- ・学習した内容を紹介するビデオレターを作成した。



得られた成果	・作成した地図ですごろくをすることで、楽しく取り組むことができる活動の中で、自分たちが生活する学校周辺の危険な場所や注意点を繰り返し学習することができた。 ・堤防やブロック塀を実際に見たり、触れたりすることで、違う場面でも「ブロック塀がある。危ない。」や「離れて歩こう。」と言いながら道路を歩く姿が見られるようになった。 ・交流校との間接交流で教材を提供することで、特別支援学校で取り組んでいる防災教育（実践内容や教材）を知ってもらうことができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・すごろくを行った後にもう一度町探検に出掛け、児童にどれくらい知識や技能が身に付いたか確かめる必要があった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	・地域の防災士の方に危険な場所等の説明をしていただく計画もあったが実現できなかった。地域との繋がりを深める良い機会になるのではないかと思います。